

# 開港5都市

函館

新潟

横浜

神戸

長崎

景観まちづくり会議 2021

長崎開港450周年記念大会

## 開催記録



# 2021 NAGASAKI 450

11月20日(土) ▶ 11月22日(月)

ポストコロナ時代の「港」を生かしたまちづくり～歴史・つながり・未来～



令和3年11月20日から22日にかけて「開港5都市景観まちづくり会議2021長崎開港450周年記念大会」を開催いたしました。期間中は、1日目は天気に恵まれ、2日目の分科会途中から3日目にかけて雨模様となったものの、大きな影響なく盛況のうちに終えることができましたことを遠方からご参加いただいたみなさま、ご協力いただいたみなさまに心から感謝とお礼を申し上げます。

今回の長崎大会では、『ポストコロナ時代の「港」を生かしたまちづくり～歴史・つながり・未来～』をテーマに掲げ、コロナ時代の今のまちづくり、ポストコロナ時代のまちづくりについて議論が交わされ、これからの港町のあり方についても議論が深まったと感じています。函館、新潟、横浜、神戸のみなさまにもお楽しみいただいたものと思っています。

来年の新潟大会でもみなさまとお会いできることを楽しみにしています！

開港5都市景観まちづくり会議2021  
長崎開港450周年記念大会実行委員会  
実行委員長 桐野 耕一

## もくじ

プログラム	P 01
全体会議 1	P 02
分科会 1	P 08
分科会 2	P 09
分科会 3	P 10
分科会 4	P 11
分科会 5	P 12
分科会 6	P 13
分科会 7	P 14
分科会 8	P 15
分科会 9	P 16
分科会 10	P 17
オプション企画 2、3	P 18
オプション企画 4	P 19
F G会議	P 20
行政会議／代表者会議／全体会議 2	P 22
オプション企画 5	P 23
思い出アルバム	P 24
大会宣言	P 26
開港 5 都市景観まちづくり会議の沿革	P 27
開港 5 都市景観まちづくり会議規約	P 28
2021 長崎大会実行委員会規約	P 29
2021 長崎大会アンケート結果	P 30
関係団体一覧	

# プログラム

日程	時間	プログラム
11月20日 (土)	12:30～ 14:00	受付・ブースセッション
	14:00～ 15:20	<b>全体会議1</b> 前半(基調講演) 会場：出島メッセ長崎107、108 (オンライン会場)
	15:30～ 17:00	<b>全体会議1</b> 後半(パネルディスカッション) ポストコロナ時代の観光まちづくり 会場：出島メッセ長崎 107 「港・水辺・海洋資源」を生かしたまちづくり 会場：出島メッセ長崎 108
	15:30～ 16:30	<b>行政会議</b> 会場：106会議室
11月21日 (日)	9:00～ 15:00 ※一部 8:30～	<b>分科会1</b> 営みとつながりが創る 新しい居留地物語 ～長崎居留地のグランドデザインをめぐる旅～ 集合：旧香港上海銀行長崎支店記念館
		<b>分科会2</b> 中国文化の伝来と湊 集合：湊公園ステージ前
		<b>分科会3</b> 風頭山「維新の道」を歩く 集合：長崎市民会館2Fロビー
		<b>分科会4</b> 長崎の新名所「南部地区」ツアー ～魅力あふれる過疎地域の未来を切り拓く～ 集合：出島表門橋
		<b>分科会5</b> 平成のアーバン・ルネッサンス構想と令和のまちづくり ～大型事業の構想からデザインまで～ 集合：長崎港松が枝国際ターミナル
		<b>分科会6</b> 港市長崎を「土木」で巡る旅 集合：袋橋
		<b>分科会7</b> 女子さるく～みなとまちインスタ部(まちなか) 集合：平和公園(平和祈念像前)
		<b>分科会8</b> 「裏長崎」で「まち登山」～長崎アソビのニューノーマル～ 集合：思案橋入口(思案橋電停すぐ)
		<b>分科会9</b> 茂木地域まるごとホテルプロジェクト構想の未来を描く ～アルベルゴ・ディフーズを目指して～ 集合：浜の町バス停(浜屋前)
		<b>分科会10</b> 都市景観大賞出島、長崎開港の起源長崎・江戸町の岬の歴史と未来 ～出島・長崎県庁跡地・国道34号線～ 集合：出島表門橋
16:00～ 18:00	<b>FG会議</b> FG Presentation Next450 集合：AGORA DEJIMA (出島ワーフ2階)	
16:00～ 18:00	<b>OP企画2</b> 桐野さんとさるく「長崎開港フェスタ450」 集合：出島表門橋	
19:00～ 21:00	<b>OP企画3</b> 長崎居留地BAR-GAI&ライトアップさるく 集合：市営松が枝第2駐車場(四海楼広場前)	
19:00～ 21:00	<b>OP企画4</b> 夜も素敵ばい!海と夜景観とサインを巡る450ナイトバスツアー 集合：出島表門橋	
11月22日 (月)	10:00～ 11:00	<b>代表者会議</b> 会場：ホテルニュータンダ
	11:00～ 12:00	<b>全体会議2</b> 会場：ホテルニュータンダ
	12:15～ 14:00	<b>OP企画5</b> デミー博士と行く土木的軍艦島上陸ツアー～コンクリート劣化調査から3D化まで～ 会場：ホテルニュータンダ

# 全体会議 1

会場：出島メッセ長崎 107、108

## 概要

大会テーマについて、基調講演や各都市活動報告、パネルディスカッションを通して、各都市の様々な条件において、いかにポストコロナ時代に港を生かしたまちづくりを行っていくか、歴史や人々のつながり、未来を考えながら議論が交わされました。

## オープニングアトラクション

原さとみさんによる  
独唱でお出迎え



## ごあいさつ

### 桐野実行委員長あいさつ

快晴の長崎で、みなさんをお迎えできたことを大変うれしく思います。

長崎は開港して今年で450年を迎えました。そして、この会場である出島メッセ長崎や長崎駅ができ長崎市は大きく様変わりした年でした。

今年もコロナ禍が続いておりますが、昨年の神戸市さんが、このコロナ禍で大変工夫をされて開催されたことが、私たちにとっては勇気となり、神戸市さんの知恵を借りながら開催に向けて取組んでまいりました。

この10日間ほど長崎では感染者ゼロということで、安全な長崎となり、皆さんの都市においても減少していき、このままコロナが収束するように願っております。

長崎は開港500年、更なる世界都市に向かってスタートを切りましたけれども、この開港5都市会議も100年続く会議としてこれからもずっと続くようにと思っております。

今日から3日間、みなさんと共に街の良さを発見しながら、気づきのある有意義な3日間であり、友好を深める3日間となりますように願っております。



### 田上市長あいさつ

ようこそ長崎へおいで下さいました。40万市民を代表して心よりお礼申し上げます。

今回450周年を迎えて、改めて思うのは、原点は港町であるということ思い出す契機にしたいと考えています。港町というのは大事なアイデンティティーであります。それを共有しているみなさんと集まって話し合うというのはとても有意義なことです。今回のテーマにもあります歴史を考える、未来を考える、その真ん中につながりがあるということ。つながりの中から新しいエネルギーが生まれたり、交流することで平和が進んだり、そういう機会になれば嬉しいなと思います。港町のアイデンティティーをどうやって未来へ繋ぐのかというのは私たちにとってすごく大事なテーマでありますので、今回良いお話が3日間交わされることを心より願っております。今回の開港5都市会議が有意義なものとなって、また、100年続く会議になることを願ひまして、歓迎のご挨拶とさせていただきます。



## プログラム

1. 開会
2. 主催者あいさつ (14:05 ~ 14:10)
3. 開催都市あいさつ (14:10 ~ 14:15)
4. プログラム説明 (14:15 ~ 14:20)
5. 基調講演 (14:20 ~ 15:15)

〔前半〕

司会：東山手地区町並み保存会 青柳 智子  
開港5都市景観まちづくり会議2021長崎開港450周年記念大会実行委員会  
委員長 桐野 耕一  
長崎市長 田上 富久  
長崎市まちづくり部景観推進室 室長 嶋本 千秋  
講師：榊原 史博  
(マカオ政府観光局 日本代表/株式会社マイルポスト 代表取締役社長)  
演題：世界史の中で踊る港町・マカオ日本との関わり・長崎との関わり  
観光を考える

6. 休憩・会場移動 (15:15 ~ 15:30)

7. パネルディスカッション (15:30 ~ 17:00)

〔後半〕

- (1) [107会議室]ポストコロナ時代の観光まちづくり  
・各都市事例報告(各都市10分×5都市)  
・パネルディスカッション
- (2) [108会議室]「港・水辺・海洋資源」を生かしたまちづくり  
・各都市事例報告(各都市10分×5都市)  
・パネルディスカッション

## 基調講演

会場：出島メッセ長崎 107、108（オンライン）  
日時：令和3年11月20日（土）14：20～15：15

講師／**神原 史博**（マカオ政府観光局 日本代表／株式会社マイルポスト 代表取締役社長）



私がお話することは、港町マカオが何で今のマカオになったのかというお話と、日本、長崎との関わりについて、そして、マカオ観光についてのお話をしたいと思います。

ヨーロッパでは大航海時代が始まり、世界へ出ていき、その最終目的地が日本であり、長崎でありました。そのことがあまりみなさんに実感されていません。大航海時代の世界的イベントだった最終目的地が日本だった、そ

して長崎の港であったことはぜひ確認してほしいことです。日本・明・マラッカの間でポルトガルが仲立ちして南蛮貿易がおこなわれ、そのおかげで1560年代のたった10年間でマカオは900人から5000人へと急激に人口が増加していきました。その中心に長崎が存在していたということです。しかしながら、キリスト教布教を恐れた日本は1639年にポルトガル船の来航を禁止しました。その後イギリスと中国の間でアヘン戦争がおこり、マカオは植民地化され、第2次世界大戦へ入り、マカオは中立国を維持したため、攻められず400年前の建物がそのまま残りました。そのおかげで現在のマカオ歴史地区が世界遺産へと変わっていきました。そして1999年に中国へ返還され、それまで1社がカジノを運営していたのですが、2002年にカジノ入札権の入札があり、外国の資本やアイデアが入って来てカジノ世界での発展が爆発しました。2017年にはユネスコの食文化都市に認定され、また、マカオと香港を結ぶ世界一長い海上橋ができて香港から車でマカオに行けるようになりました。

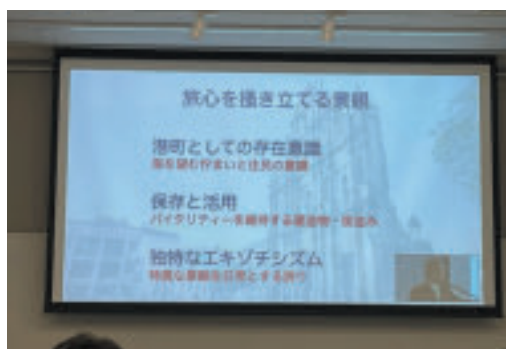
しかし昨年コロナの影響で外国人はマカオに一切入れないゼロコロナの方針で今日まで来ています。

この間マカオは物の動きから人の動きへ、世界の観光旅行者は無尽蔵ということで観光の街・マカオへ転身を行いました。

まず、マカオオンリーでどこにもないものをつくりあげ、旅心を掻き立てる景観をつくり、景観を守るためには土地の利用を有効にするために政府が明確な方針を立て、マカオ半島は世界遺産と市民の暮らし、タイパ地区は文教地区、コロアン地区は自然保護地区、コタイ地区は統合型リゾートここにカジノなどのIRをつくり、観光客と住民の住み分けをはっきりと分けました。

なぜマカオが観光の街に脱皮できたのかというと、物の動きから人の動きへの概念のシフティングや複合型リゾートIRの参画、MICEの誘致など観光の多様化への政府主導による積極的な取組み、広範囲な旅行者への多彩なプロダクトの提供、そしてそれを受入れる住民の存在があります。また、トータルビジョンで開発を行ったことによるものです。

まとめとして、これからは観光旅行・産業の変化があり、あらゆるものが変化していきます。団体旅行から個人旅行が主流になります。パラダイムシフトへの対応をしないと遅れていきます。個人それぞれに対応するためあらゆる分野の使い方や考え方を大きくリセットしていかなければなりません。



107 会場



108 オンライン会場

# 全体会議 1 後半 パネルディスカッション (107 会議室)

会場：出島メッセ長崎 107 日時：令和3年11月20日(土) 15:30～17:00

## テーマ ポストコロナ時代の観光まちづくり



### 各都市事例報告

#### 函館市

佐々木 馨(函館景観まちづくり協議会)



2022年に函館市政100周年を迎えます。

2021年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、世界文化遺産登録されました。

函館市では西部地区再整備事業を転換しており、官民一体となって「株式会社はこだて西部まちづくRe-Design」を設立し、旧北海道庁函館支庁庁舎の利活用に向け函館市と協議進行中であり、

また、空地となっている私有地を利用し「ローカルマーケットin大町改良ひろば」開催するなど、まちづくり活動の取組みを行っています。

また、函館市民の有志が演ずる「市民創作函館野外劇」が2年ぶりに開催され、7月には五稜郭にあるシエスタハコダテ周辺の路面店約50店舗が参加し「五稜郭まちなかオープンテラス」が開催され、道南在住アーティストが出演するライブ等も行われました。

函館は、歴史力・経済力・文化力により都市化が推進してきたと思われま

#### 新潟市

上杉 知之(にいがた花絵プロジェクト実行委員会)



新潟駅改装に伴い駅から都心に向かう通りを新潟2キロと称して新しい都心軸を造るため、景観まち歩きを実施しいろいろな調査を行いました。

新しい観光としては新潟市では「にいがた旅むすび」と題して、旅に行く前から旅行者と旅先をもっと「むすび」より旅を楽しんでもらうための取組みとして、オンラインとリアルの

ハイブリット型観光商品を提案し進めているところです。

景観を活かした観光として古い町並みや信濃川沿いのテラスを利用し、フリーマーケットやマルシェを行っており、夜にはお酒も提供するお店も出店し景観を活かした取組みを行っています。

様々な観光コンテンツとして歴史、文化、食・酒を体験することによって人、新しい景観・古い景観を加味していくことによって、これからの新潟市の観光を行っていかなくてはならないと考えています。

## 横浜市

坂口 祐太(Yocco18)

みなと大通り及び横浜文化体育館周辺再整備で将来的には車道を減らし歩行空間にする計画のため「みっけるみなぶん」と称した実証実験が行われました。アンケートの結果は8割以上の方から好評であったとのことです。

「多彩な交通」施策として、民間事業により、みなとみらい地区に日本初の都市型ロープウェイが出来上がりました。

ウォーターフロント軸を繋ぐ、「女神橋」が開通し、これにより回遊することなく、海沿いを通行ができるようになりました。夜の観覧車の夜景でオリンピックのピクトグラムの演出が行われました。金沢区では第1号の特定景観形成歴史的建造物である旧円通寺客殿を公園施設として整備中であり、山手133番館が歴史的建造物として認定を受け、再開発の波が押し寄せる中、日本郵船ビルが全面保存となり再開発が進んでいくこととなりました。また神奈川県まつりがオンラインで行われ、これまでのオフラインで行われてきた時よりも学生、地域住民、YouTuber、老人ホームなどが参加し幅が広がったと聞いています。

Yocco18は、キャラクターを使って地域に親しんでもらうための活動を展開中であり、地域で行われている活動やイベント等を一般の方に理解してもらうために今後も活動を行っていきたくと考えています。



## 神戸市

曹 祐仁(南京町景観形成協議会)

神戸の代表的なイベントは全て中止となりました。地域主体のイベントでは北野インフィオラータは中止になりましたが、南京町の春節祭はアーカイブ春節祭で映像やその他工夫を凝らして開催しました。サテライト会場として南京町ではなく北野町で北野春節祭と称して獅子舞等の中華のテイストを洋風な北野町で行うことにより、新たな可能性を見出すことができました。

公民共創事業として行政の支援により、一般的な歩道にキッチンカーを使ってお店を出し、お酒等楽しめる神戸YORUマルシェというイベントを6日間行いました。神戸駅周辺と元町駅周辺の2か所で行うことにより、回遊性が



生まれ幅広いイベントとなりました。

まちづくりを行う際には、民間がアイデアを出し、行政がフォローするという二人三脚の体制が必要になってくると思っています。

## 長崎市

梅元 建治(一般社団法人 ナガサキベイデザインセンター)

長崎は現在人口減少が全国トップクラスの状態です。コロナの感染拡大に伴い観光客数も激減しました。

長崎居留地まつり実行委員会の取組として、医療従事者に対して応援の横断幕の設置や子供たちからの応援の手紙を書いてもらい、ホテル食を病院に提供をしました。

昨年の居留地まつりはハイブリットな形で行いましたが、今年9月に「おうちで居留地つながるながさき」をコンセプトに完全オンラインで開催しました。全て素人で手探りの開催でした。そのなかで開港5都市テレホンショッキングを函館・新潟・横浜・神戸の仲間の皆さんに協力してもらいリレー形式でオンラインミニツアーを行いすごく中身の濃いものとなり感動しました。

またこのコロナ禍の中、新しく長崎居留地歴史まちづくり協議会を設立し重点区域歴史まちづくり計画の策定を行ってきました。

自分たちの将来を創っていくのは、わかもの・よそもの・ばかものではないかと思っています。ただ一番大事な開港5都市のテーマは次世代への継承と思っています。



### パネルディスカッション

コーディネーター：高尾 忠志(長崎市景観専門監)

コーディネーター高尾景観専門監の進行のもと、各パネルから以下のような意見が交わされました。

- ・開港5港の共通点の模索を今後行っていく。
  - ・港を住民が楽しむ空間とすること。
  - ・一般市民を巻きこむ手法やキラーコンテンツの人材を上手く使っていくこと。
  - ・よそ者の目、外からの学びを主眼に置くこと。
  - ・その地区の歴史、時間の経緯を重んじながら次の目的を仕掛けること。
  - ・港町としての主張が弱い。
  - ・まちづくりはボランティアではなく、生産の組織としてKPI(重要業績評価指標)をたてて行動すべき。
  - ・人が何を望んでいるのかを読み取る目を持ち、どういう観光をめざすか、出来上がった時のイメージを共有すべき。
- 今後の取組み等についての意見が中心に議論され、各都市がポストコロナ時代の観光まちづくり活動に対しての視点や論点を見出すパネルディスカッションとなった。

# 全体会議 1 後半 パネルディスカッション (108 会議室)

会場：出島メッセ長崎 108 日時：令和3年11月20日(土) 15:30～17:00

## テーマ 港・水辺・海洋資源を生かしたまちづくり



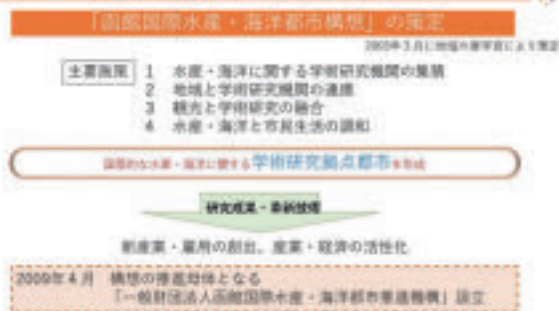
### 各都市事例報告

#### 函館市

##### 溝江 隆紀(函館市役所)

- 函館市の人口は約25万人で、毎年約3,000人が減少。
- 暖流・寒流が流れ込み、優良な漁場を形成。
- 大学をはじめとする学術研究機関が数多く立地。
- 造船、水産加工、機械部品、マリンITなど、水産・海洋に関する様々な関連産業が集積。
- 2003年3月、産学官で「函館国際水産・海洋都市構想」策定。
- 歴史的建造物である旧函館西警察署庁舎の改修を行い、2007年4月、水産・海洋関連産業の技術の高度化や水産振興に貢献する研究施設「函館市臨海研究所」として供用開始。
- 2014年6月、学術試験研究機関や民間企業が入居できる研究室などを備え、水産・海洋分野の研究開発や産学官連携の拠点となることを目的に「函館市国際水産・海洋総合研究センター」を開設。
- 函館駅西にクルーズ客船専用岸壁「若松ふ頭」を整備。
- 金森赤レンガ倉庫群から旧栈橋間に、遊歩道やベンチを備えた「函館港末広緑地」を整備。
- 昨今の記録的なイカ不漁により深刻な影響を受けている水産加工業に対する中長期的な支援策として、2018年度から「魚種転換支援事業補助金」を創設。
- 地球温暖化等の影響により、近年、函館近海での漁獲量が急増しているブリを活用する取組みを実施。

【1】函館国際水産・海洋都市構想の策定



#### 新潟市

##### 本間 海渡(NPO法人新潟海洋開発)

- NPO法人新潟海洋開発は、誰ひとり取り残さない隔たりのない水辺「ブルーオーシャンビーチ」の創出に取り組んでいる。

- 信濃川は全国初の2つの分水路をもつ河川で「大河津分水路」は2022年に通水100周年、「関屋分水路」は同じく50周年を迎える。
- 開港5港のなかで潮位の差が最も少ないのが新潟港。
- 「ミズベリング水辺アウトドアラウンジ@やすらぎ提」が2年ぶりに開催。
- 西野主催の「ミズベウォーク」開催。
- 2019年8月、水上ステージを設置したコンサート「新潟青年会議所65周年記念事業 PEACE BANK」を開催。
- 新潟港に隣接する都会型ビーチ新潟西海岸は、砂浜が急速に浸食され海岸線が350m後退・人と海の触れ合いの場として海浜空間を再形成することが望まれ昭和61年度より国策の工事を実施し、令和3年3月末で完了
- 新潟海洋開発主催「ビーチテニスフレンドカップ」は2021年計7回開催し、商品に開港5都市の名産品を活用。
- 先達たちが創り上げてきた新潟西海岸を、世界一キレイで楽しい水辺にするため、観光地として賑わいを創出し、将来にわたり安心して利用できる砂浜を持続できる海岸管理の一翼を担っていく。



#### 横浜市

##### 森 由香(ヨコハマ海洋市民大学実行委員会)

- JR関内駅周辺では、新たなシンボルロードとして「みなと大通り」、「文化体育館周辺道路」が再整備中。車道を狭めて歩道を広げる計画。
- 日本初の都市型循環式ロープウェイが4月に開業。運賃は大人片道千円。
- 臨港パークと新港パークを繋ぎ、海岸線に沿って回遊できる歩行者デッキ「女神橋」が3月に全面開通。
- 東京オリパラの開会式で話題になった「動くピクトグラム」をコスモクロックで特別に演出。



- 認定歴史的建造物「旧円通寺客殿」の敷地を公園として整備し、建物の保全工事を実施。
- 洋館「山手133番館」が3月に横浜市 of 歴史的建造物に認定。
- 海岸通り地区の横浜郵船ビルは全館保存を基本に、現在具体的な計画を検討中。
- みなとみらい21地区の開発の総仕上げとして、臨港パーク先端部等の整備に関する意見募集が行われ、施設については「砂浜」や「ウッドデッキ」の需要が高かった。
- 関内・関外地域を中心とした20～40代が情報交換する「NPO法人HamaBridge 濱橋会」が発足。
- 「横浜SUP倶楽部」は、横浜で「毎日SUPできる環境づくり」をテーマに活動。
- 「ヨコハマ海洋市民大学」は、2014年、大さん橋(旧鉄棧橋)の竣工から120周年を機に、横浜の海に想いのある人が集まる学びの場として発足。

ヨコハマ海洋市民大学は、大さん橋(旧鉄棧橋)の竣工から120周年を機に、横浜の海に想いのある人が集まり学びの場を作ろうと活動をしたことから始まった手作りの市民大学です。2014年8月にスタートしました。



ヨコハマ海洋市民大学

## 神戸市

### 永田 泰資(三宮中央通りまちづくり協議会)

- 新港突堤西地区(第1堤基部)再開発事業は公募の結果、マンションや複合文化施設などが建設予定。10月には劇場型アクアリウム[a to a]が先行してオープン。
- 新港突堤西地区(第2突堤)再開発事業は公募の結果、大規模多目的アリーナが建設予定。
- ポートタワーがリニューアルされ、展望デッキなどの整備が完了。
- メリケンパークがリニューアルされ、噴水広場や「BE KOBE」のモニュメントが設置され、スターバックスがオープン。
- ポートタワーや「BE KOBE」モニュメント、海辺の建築物などにより夜間景観を演出。
- 都心とウォーターフロントエリアをつなぐ連節バス「ポートループ」導入。
- 都心から港への回遊性向上、市民の居場所づくりとして「税関前歩道橋」、「こども本の森」、「鯉川筋」、「東遊園地」の整備が計画中。
- 歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)制度を活用し「三宮中央通り」を歩行者利便増進道路に指定し、道路占用許可基準を緩和。
- 都心の新たな憩いや賑わいの創出を目的として車道停車帯を利用した「KOBEパークレット」が誕生。
- 神戸ならではの食や地場産品などを提供するキッチンカーが出店する「元町YORUマルシェ」開催。

公共交通機関の整備 連節バス「ポートループ」



## 長崎市

### 平山 広孝(長崎都市・景観研究所/長崎市役所)

- 最近の長崎市は人口の社会減少(年間約2,000人)が問題。
- 長崎は海とともに歩んできた歴史があり、1571年長崎開港、1636年出島完成、1689年唐人屋敷完成、1859年安政の開港、1945年原子爆弾投下などがある。
- 戦後は1975年頃に造船業、1980年頃に水産業がピークを迎えた。
- 1980年から2000年頃にかけては長崎港の内港再開発が積極的に推進。
- 2010年以降は大型クルーズ船の誘致が好調だった。
- 社人研の推計では2045年には人口約30万人の都市となる。
- 開港5都市会議FG会議を契機に、長崎の次世代を担う「FG長崎2045」という団体を設立した。
- 現在、クルーズ誘致に向けた松が枝岸壁の2パース化事業が進行中。
- 水辺を生かした活動として、出島表門橋・出島表門公園の設計者らが、出島表門橋PRや公園活用のサポートなどを行う団体「DEJIMA BASE」が設立され、「令和3年度地域づくり表彰審査会特別賞」受賞。
- 海洋資源の新産業としては、長崎大学に海洋未来イノベーション機構が設立され、海洋エネルギーと水産業を基盤とした「海洋技術クラスター構想」など、新産業形成に向けた研究開発を推進中。
- 水辺=居場所づくり、港=交通・交流、海洋=産業、海を活用した取り組みにはまだまだ可能性があり、「海都長崎2045構想」の作成に着手したい。



令和3年度 地域づくり表彰審査会特別賞 受賞

## パネルディスカッション

### コーディネーター：牧田 悠依(FG長崎2045)

最初に、各登壇者から各都市事例報告の感想を聞き、都市間の共通点や相違点などが明らかになった後、「もし自分が海でビジネスをしたら?」というお題で各登壇者がアイデアを披露。海を生かした教育プログラム展開やモビリティを活用した体験プログラム開発などのアイデアが出た。海洋資源に恵まれた5都市の特長を生かし、子供たちが海や港に接する機会を増やしていくことが、未来の水辺の活用や産業形成に繋がっていくことを確認した。





担 当：長崎居留地歴史まちづくり協議会 案内人：桐野耕一、梅元建治、長瀬雅彦 参加者：15名  
経 路：旧香港上海銀行→グラバー坂→大浦天主堂前→グラバー園→三浦環象前でレクチャー→旧グラバー住宅→旧リンガー住宅→旧オルト住宅→旧スクール記念館→グラバー園第2ゲート→南山手レストハウス→斜行エレベーター→石橋・梅元事務所（雨で急遽意見交換会）→ホテルニュータング（昼食・居留地ハヤシライス）→東山手13番館→12番館→孔子廟（サプライズとして変面ショー観劇）

長崎の山手地区、旧外国人居留地一帯は、長崎市歴史的風致維持向上計画の中で「重点区域」に設定され、地域住民や関係者で構成した協議会を立ち上げ、令和2年度から長崎市と協働で計画策定を行って参りました。分科会1では、「長崎居留地歴史まちづくりランドデザイン」を参加者にお渡しし、長崎居留地の歴史景観の活用策を参加者と共有しながら、まちを歩き（さるく）しました。分科会テーマは「営みとつながりが創る 新しい居留地物語～長崎居留地のランドデザインをめぐる旅～」。9時から15時までの行程は香港上海銀行長崎支店記念館からスタート。分科会の案内人は桐野耕一（長崎居留地歴史まちづくり協議会会長）と梅元建治（同事務局長）が務めました。

旧香港上海銀行長崎支店記念館の1階ホールで「長崎居留地歴史まちづくりランドデザイン概略解説を行い、南山手から東山手をめぐるコース。設定した各休憩スポットで計画の背景や現状、課題の説明を行いました。途中降雨に遭遇しましたが、雨宿りもまた「長崎は今日雨もだった♪」と前向きにツアーを楽しんで頂きました。昼食もホテルニュータングの特製の居留地ハヤシライスとカフェ付きのエッグタルト。最後の孔子廟ではサプライズ「変面ショー」をお土産に楽しんで頂きました。

#### 参加者からの主な意見

- ・実際に斜面地を歩き計画策定の背景「市民生活・営みの向上」の意味が理解できた。
- ・参加の高校生から毎月第3日曜の「グラバー・ファミリーデー（長崎市民無料開放）」に参加したくなる。
- ・途中の雨でも臨機応変な対応で、もさるくで鍛えられている長崎ならではの対応なのかもしれないと感心した。
- ・100年前から受け継がれた歴史的景観の上に今の生活があり、未来に向けて継承していく意味を考える良い機会となった



写真①：グラバー園内、オンライン中継した旧オルト邸前で



写真②：雨が降っても臨機応変に 長崎市の進捗する全体計画を説明



写真③：ツアーの最後は孔子廟で「変面ショー」のサプライズ



担 当：十善寺地区まちづくり協議会 案内人：八木一朗夫妻(元十善寺地区まちづくり協議会会長)、河原廣行 参加者：17名  
経 路：湊公園→広馬場商店街→四海楼跡→土神堂→中通り→蔵の資料館→福建会館(二胡の演奏)→十善寺地区まちづくり情報センター(中国茶)→天后堂→観音堂→十善寺地区コミュニティ住宅(斜面市街地再生事業)→小島養生所跡資料館→大徳寺公園→京華園(新地中華街)

分科会2では、パッチワーク街長崎の、中国色の濃い唐人屋敷跡を巡り、中国文化が生活の中で共存している唐人居留地である十善寺地区を中心に探訪しました。

むかし海であった湊公園をスタートし、広馬場商店街を散策しながら、ちゃんぽん発祥の店四海楼跡を通り、唐人屋敷跡の土神堂で蠟燭祈願。蔵の資料館で唐人屋敷跡の歴史の話にみなさん耳を傾け、和・中共存様式の福建会館で二胡演奏により中華感を満喫。まちづくり情報センターでは、中国茶の試飲でみなさん大喜び!ここで中国の古の世界からお別れをし、長崎ならではの斜面地で、市街地再生事業が行われた十善寺地区コミュニティ住宅へ。ここではエレベーターと通路が公共の通路であることにみなさん驚かれ、長崎ならではの斜面利用を感じて頂きました。その後我が国初の近代西洋式病院である小島養生所の資料館では、日本近代西洋医学教育の父と称されるポンペの功績に触れ、大徳寺の大楠の下で時の経過に浸りました。最後は中華街で長崎中華に舌鼓しながら意見交換を行い、他都市からのアドバイスも受けることができ、有意義な分科会となりました。

#### 参加者からの主な意見

- ・少人数の分科会の為に、一人一人の顔と名前を覚える事ができて、少人数の分科会の良さを感じた。
- ・分科会が広範囲で開催されて、地元小店の料理を食べるコースも有って変化に富んだ分科会であった。
- ・春節祭を洋館エリアも巻きこんで行うとおもしろい。
- ・中華街から唐人屋敷への導線を際立たせたら、広馬場にある居留地境の石柱など見過ごす恐れがあるため表示が必要では。
- ・店舗で日曜日の定休日があるのは寂しい。



夫婦案内。息もピッタリ(シャッターアート前にて)



中国文化の説明を熱心に聞いて頂いて!(福建会館にて)



食事前の意見交換。この後、各テーブルにて食事しながら意見交換



写真①：眼鏡橋で久松氏が中島川の説明



写真②：近藤長次郎の墓から高島家墓地に向かう途中のみじ坂



写真③：唐通事の墓で松永氏（学芸員）が説明中

担 当：風頭公園景観振興会 案内人：片山巧、永松実、久松健太郎

参加者：11名

経 路：市民会館→眼鏡橋→上野彦馬の生誕地→ししとき川→幣振り坂→松平図書頭の墓→シーボルト・楠本イネの顕彰碑→近藤長次郎の墓→高島家墓地→唐通事・阿蘭陀通事の墓→坂本龍馬像→亀山焼窯跡→若宮稻荷神社→良林亭跡→亀山社中記念館→興福寺→めがね橋LOGIC→眼鏡橋「花ござ」で昼食後解散

分科会3では、まず、日本最古の石橋である眼鏡橋から中島川周辺をご紹介します！上野彦馬の生誕の地では日本写真の祖の痕跡を辿り、人工の水路「ししとき川」では昔の人の衛生・防災の意識や技術を学びました。坂本龍馬をはじめとする海援隊のメンバーらが闊歩した長崎おなじみの階段道を息を上げながら「近藤長次郎」らの偉人たちが眠る墓を巡り、山頂の風頭公園の坂本龍馬像展望台で休憩しながら港や市街地の眺望景観を楽しみました。山を下りながら、亀山社中を復元した記念館を訪れ幕末維新に思いを馳せるとともに、日本最古の唐寺である興福寺で黄檗文化に触れました。まちなかエリアに戻り、長崎最古の商店街と言われるアルコア中通り商店街では、長崎市のまちなみ整備助成制度を活用した修景事業を見学。2020年にオープンした「めがね橋LOGIC」は、商店街や自治会の有志により空き店舗3棟を町家風の商業施設兼民泊にリノベーションした取組みで、参加者の関心を集めました。

風頭・中島川・寺町エリアは、激動の幕末維新の物語が多くあり、当時活躍した人々が風頭山の山麓に眠っています。先人の想いをこれからのまちづくりに生かすべく、互いに有意義な分科会となりました。

#### 参加者からの主な意見

- ・偉人たちの話はもちろん、眼鏡橋やめがねばしロジックの取組みも印象に残りました。
- ・市民が行政と連携し積極的にまちづくりに取り組まれているのが長崎の特徴だと感じ、神戸も参考にしなければと強く考えさせられました。
- ・このコースに参加して大変良かった。再整備が終わったら、風頭山にまた足を運びたいです。
- ・歴史に興味を持つことができました。偉人の墓をめぐるなかなかできない体験でした。



担 当：深堀地区まちづくり推進協議会 案内人：西清（深堀地区まちづくり推進協議会 会長）、安達考紀（長崎のもぞき恐竜パーク 所長）、田中康久（長崎市景観推進室） 参加者：16名  
経 路：出島表門橋前→深堀さるく→峰かまぼこ→権現山山頂→朝市食堂（昼食、水仙マンミニLIVE）→のもぞき恐竜パーク→恐竜博物館見学→恐竜パーク内会議室（野母崎、恐竜博物館等のプレゼン、意見交換）→長崎税関前（解散）

まずは、深堀地区へ。江戸時代城下町であった痕跡を辿り、深堀の歴史にふれあいました。次に向かったのは、長崎半島の先端に位置する権現山公園。開港の歴史等の話題に触れ、また、長崎の魅力の一つである海の絶景を堪能し、長崎の新名所として記念撮影をこの場所で行いました。昼食を野母町の漁港に位置する朝市食堂で野母崎の新鮮な魚を使った海鮮丼に舌鼓しながら、地元のアーティスト水仙マンのライブで大盛り上がり！昼食終了後には、昭和を感じさせる漁港のまちなみを眺めながら、どこか懐かしさを感じるひと時を過ごし、新たなスポットエリアの恐竜パークへ。まず恐竜博物館で、野母崎で発掘された恐竜の化石に直に触れ、恐竜の生きていた時代を想像しながら、迫力ある恐竜のレプリカ達の前で、皆さん幼少の頃を思い出したように活発に動かれ、恐竜の世界に入り込んでいました。

その後、パーク内の会議室へ移動し野母崎地区におけるこれまでの活動や今後の展望などについて講話を聴いた後、意見交換を行いました。皆さん活発で、有意義なものとなりました。

#### 参加者からの主な意見

- ・ 過疎地域の中で、まちを再構築する若者の存在がすごい。
- ・ 古きものと新しいものの融合が素晴らしい。
- ・ 地域の価値の再認識と発信に感銘した。
- ・ 深堀、野母崎の方の地元愛を感じ、そこに未来を感じた。
- ・ 長崎の新たな名所発見に次回長崎訪問時も再来訪したい。
- ・ 各まちづくり団体の悩みの種として、次の世代への継承。



写真①：深堀の歴史にふれあい、説明に聴き入る御一行!!



写真②：絶景!! 太平洋・東シナ海との交わりをご堪能!!



写真③：恐竜博物館で1億年以上むかしの世界へタイムスリップ!!



担 当：(一社)長崎県建築士会長崎支部 案内人：中野善弘、長崎県都市政策課、長崎市交流拠点施設整備室、長崎市長崎駅周辺整備室  
参加者：20名  
経 路：松ヶ枝国際ターミナル屋上→旧香港上海銀行長崎支店記念館(予定外)→長崎水辺の森公園→長崎県美術館→出島ワーフ→長崎港ターミナル→ドラゴンプロムナード→倉庫→昼食「老李」(ちゃんぽん・杏仁豆腐)→長崎駅→出島メッセ長崎

分科会5では、横浜から3名、新潟から2名、神戸から1名のご参加をいただき、ほか一般参加は、ほぼ建築士会のメンバーでありました。大テーマであります「アーバンルネッサンス構想2001」や「アーバンデザインシステム」の紹介、港周辺のまちづくりの取り組みなどのレクチャーを受けた後、松ヶ枝国際ターミナルをスタート、長崎港周辺の公共大型建築物や公園などをつぶさに見て回りました。ルネッサンス構想以降、大きく様変わりした港の周辺は気持ちの良いきれいな空間になったとお褒めの言葉をいただきました。お昼は「ちゃんぽん」と「杏仁豆腐」でおなか一杯になり、駅周辺で、市役所の方から駅周辺計画のレクチャーを受けて、県庁の展望室で長崎港のパノラマをご覧いただきました。最後は県庁の会議室で、意見交換を行いました。

長崎もずいぶん変わったとお聞きしましたが、今後も、新幹線の開通、サッカースタジアムも完成し駅周辺は、さらにさらに大きく変貌を遂げていることでしょう。皆様のまたのお越しをお待ちしています。ちなみに、7キロ以上、10000歩を超える距離を歩いていただきました。



運河沿いの県美術館に向かって



県庁会議室にて意見交換会



アーバンルネッサンスとアーバンデザインシステムの説明：県都市政策課 添川氏

#### 参加者からの主な意見

- ・ドラゴンプロムナードの屋上遊歩道は、活用の方法を市民側からアイデアを出すべきだ。
- ・公園や施設は斜面地から降りてくる市民を喜ばせている。
- ・実際には、水面と市民のかかわりが見えない。
- ・港の水上交通も含めて、様々な水面を活用していくことも必要なのではないか。



担当：プラスアイエヌジー、DEJIMABASE  
 案内人：江口忠宏(DEJIMABASE)、田中潤介(長崎コンプラドール)、  
 岩永俊秀(シーカヤック長崎)  
 参加者：14名  
 経路：袋橋→シーカヤック(袋橋⇄長崎港)→中島川橋さるく(袋橋→網笠橋)→  
 チリンチリンアイス→慶華園(ちゃんぽんor皿うどん)→長崎竜馬観光駐車  
 場(おもしろ自販機)→本河内低部ダム(国指定重要文化財)→本河内高部ダ  
 ム(国指定重要文化財)→女神大橋→女神大橋水平梁→女神大橋頂部→小  
 菅修船場(世界遺産)

ポルトガル船の入港に始まった長崎の街は、陸路の整備や、出島の築造、唐人たちによる石橋群など、多くの土木構造物が造られました。特に明治時代は社会基盤を近代化する大転換点となり、全国に先駆け長崎では、道路、鉄道、港湾、水道、通信など近代的な土木構造物が建設され、港を中心に発展していきました。これらの土木構造物は、現在も数多く残っています。分科会6では、これらの土木構造物を水面、地上、空中から巡る、普通では体験できない特別なツアーを実施しました。朝一は、袋橋からシーカヤックに乗って、周囲の注目を浴びながら中島川を下って行きます。様々な橋を堪能しつつ、水面から見る出島の風景は絶景です。この日は長崎くんちの来航船も展示されており、唯一無二の風景になりました。その後は、最古の石橋「眼鏡橋」などの石橋さるきながら昼食会場へ。おなかも満たされたところで、本河内ダムに立ち寄りながら、女神大橋へ！約600段の階段を登って、上空175mの世界を目指します。あいにくの雨模様でしたが頂部で過ごす時間が特別な体験になりました。かなり過酷な非日常体験型分科会でしたが、新たな長崎の魅力を体感していただけたと思います。

#### 参加者からの主な意見

- ・長崎ならではの景観がみれる魅力的なツアーだった。
- ・長崎の様々な面と体験ができた。
- ・激レア体験に感動！
- ・川から、空からみた長崎の街は素晴らしい！
- ・土木の目線が新鮮だった。



写真①：女神大橋の上から鶴の港を感じます。



写真②：最先端の橋「出島表門橋」を水面からみる



写真③：昼食会場までは中島川石橋群の橋さるく！

分科会  
7

女子さるく  
～みなとまちインスタ部

令和3年  
11月21日(日)  
9:00～15:00



担 当：ナガサキマチナカ女子部 案内人：阿部美和子、地元参加女子 参加者：15名  
経 路：平和公園祈念像→路面電車にて100年に一度の再開港を眺めながら蛭茶屋到着→墓ビュー本屋ウニとスカッシュ見学（ごま豆腐購入）→伊良林100年の町家見学→中通りめがね橋口ジック→南山手洋館保存センターにて昼食「特製開港弁当」#みなとまちインスタ部提案の意見交換会→大浦小町会交流→斜行エレベーターより景観を臨む(解散)

分科会7では、キーワードはSNSを活用した開港、まちづくり、女子目線。長崎弁を聴きながらの街歩きは「マチ思い」の人に出会う時間となり、新たな交流が生まれ参加者それぞれが気づきのある分科会になりました。ガイドブックとしてナガサキマチナカ女子部制作のマップなど「女子部づくし」をセット配布。女子部がこの分科会テーマの「SNS」を通してつながったコミュニティであること、平和だから出来る活動であることなど平和祈念像スタートの意味を参加者でシェアして出発。長崎らしい墓が目の前に広がっている通称「墓ビュー」の本屋さん見学し、女子部の活動の代名詞ともいえる100年の町家では活用方法などについて、限られた時間での活発な意見交換を行い、お互いのまちの取り組みについての再発見になり今回の地元女子参加の手応えと意義が感じられました。昼食は港を臨む洋館で波佐見焼の器に詰められた長崎尽くしのこの日限定の「特製開港弁当」。器はそのまま持ち帰りの土産になるのが女子目線。SNS初心者も互いに教え合いそれぞれのまちから思いを共有する「#みなとまちインスタ部」のタグを提案。要検索!!チェックです!

- 参加者からの主な意見
- ・まちあるきの新たな可能性を感じた。
  - ・地元参加でも知らないことばかり! 第2弾を!
  - ・弁当に感動しました
  - ・この分科会に参加して大収穫! 長崎サイコー!!
  - ・よそのマチの方と繋がれて楽しかった!
  - ・この内容で参加費安い!



写真①：平和祈念像出発! 平和を実感してスタート



写真②：分科会ガイドブックは女子部づくし!!



写真③：器を持ち帰り! 「特製開港弁当」





担 当：長崎都市・景観研究所 / null 案内人：平山広孝、中尾順光(長崎伝統野菜農家) 参加者：15名  
経 路：思案橋入口→まちづくりスナックシグナル→丸山公園→大徳寺公園(名物梅が枝餅)→小島養生所跡資料館→十善寺地区コミュニティ住宅(斜面市街地再生事業)→稲田町8号線(同)→コリーヌ(斜面地グルメ)→お好み焼き屋(斜面地グルメ)→どんの山公園(斜面地ピクニック)→さかのうえん中新町ヒルズ→中新町南部公民館(意見交換会)→さかのうえん中新町ベース

長崎観光の黄金ルートである浜の町から新地中華街、南山手を「表長崎」と呼ぶなら、その後背地にある丸山から十善寺、東山手の斜面市街地を裏長崎と呼んでみます。「まち登山」とは、魅力が詰まった斜面市街地を手づらで登りながら、地域のお店や歴史、路地景観などを楽しむ新感覚のアクティビティです。

まずは江戸時代に、吉原・嶋原と並んで日本三大花街だった丸山エリア周辺を訪れ、空きスナックを活用した若者向けのコワーキングスペース、歴史ある長崎検番や大徳寺公園を巡りました。

十善寺エリアでは、令和2年4月に開館した小島養生所資料館(我が国最初の近代西洋式病院跡)を見学したのち、着手から30年が経過しても完成しない斜面市街地再生事業の現場を確認。用地取得や合意形成のコスト・リスクが高い土手的手法による既成市街地再生の難しさについて考えました。

道すがら、昭和風情が残るお好み焼き屋さんや、新たにオープンしたスイーツ店でグルメを買い足しながら急な階段をどんどん登ると、標高130Mの「どんの山」に到着。車も入らない知られざる絶景公園にシートやチェア、ミニテントを広げ、ピクニックスタイルで斜面地グルメを堪能。下り途中、空き地活用市民農園「さかのうえん」での長崎伝統野菜の収穫体験や長崎伝統野菜農家の中尾さんによる長崎伝統野菜講座を経て分科会は無事に終了。有名観光地にはあえて立ち寄らない分科会となりました。



写真①：丸山エリアの大クスは推定樹齢 800 年のパワースポット!



写真②：「さかのうえん」で長崎伝統野菜「唐人菜」の収穫体験



写真③：中新町南部公民館にて伝統野菜講座と意見交換会を開催

#### 参加者からの主な意見

- ・斜面地は人との距離が近くハートフルな体験ができた。
- ・長崎市民向けにもこのツアーを開催して欲しい。
- ・斜面地の負のイメージを「登山」で前向きにできている。
- ・「さかのうえん」は楽しそうにやっているのが良い。
- ・空き家や空き地をうまく使うことで、安心できるコミュニティのなかで広く、豊かに住まうことができる。



担 当：茂木まちホテルツーリズム協議会  
案内人：・大島徹也(茂木まちホテルツーリズム協議会 会長)  
・佐藤瞳 (ダイスプロジェクト)

参加者：9名

経 路：浜の町バス停→プレミアム朝フェス→茂木まち歩きツアー→中崎水産(昼食)  
→月と海、NAGASAKIHOUSEぶらぶら施設見学→月と海(茂木、茂木地域  
まるごとホテルプロジェクト構想のプレゼン、意見交換)→浜の町バス停(解散)

分科会9では、長崎市内からバスで20分。「長崎市の奥座敷として栄えた」茂木町へ。バス停からプレミアム朝フェス会場がある元料亭を改修したオープンイノベーション拠点(NAGASAKIHOUSEぶらぶら)まで軽くまち歩きをしながら移動。プレミアム朝フェス会場では、①ヨガ体験、②サイクリング体験、③モルック体験、④リアカー屋台(コーヒー振る舞い、本、遊び道具貸し出し)等を提供。参加者同士が交流を図りながら、茂木の朝を楽しんで頂きました。

その後は、茂木のまち歩きを行いました。居留地時代は長崎市から雲仙の避暑地へ向かう要所として外国人が多く訪れた場所で、とても賑わっていた当時の様子などを話しながら思い思いにまち歩きを楽しんでもらいました。

ランチタイムはふぐ料理を提供している中崎水産でランチタイム。食事後は、まちづくりの拠点である宿泊施設の月と海、ぶらぶらの施設見学。見学後は月と海のミーティングルームにて本プロジェクトの説明と意見交換を行いました。

参加者からも実際にまちづくりをしていることもあり、様々なご意見が交わされ大変有意義な時間となりました。

#### 参加者からの主な意見

- ・体験や地域回遊を通して住民が積極的に関わっている場面やクリエイティブに落ちていると感じる部分が少ないと思った。
- ・朝フェスや会議等、挨拶など、取り組みを行ってはいるが、なかなか継続や関係の深さには繋がっていない。また、住まいと観光へのギャップを埋めづらい。



写真①：海の名を聞きながらヨガの時間を堪能♪



写真②：近くの公園でチームに分かれてモルック体験



写真③：施設見学の後は、真剣な意見交換タイム。



担当：FG長崎2045 案内人：森恭平、品川正之介 参加者：10名

経路：出島表門橋→【座学】旧出島神学校(研修室)/市出島復元整備室山口氏・市景観推進室吉田氏→出島内見学→日新ビルsoubi56/田川氏→旧国鉄線路跡→【昼食】(アティック/出島ワーフ)→【江戸町さるく】旧長崎警察署(旧県庁第三別館)/県庁跡地活用推進室 柳本氏→旧長崎県庁跡地→おくんち・奉納船見学→江戸町商店街→たてまつる/高浪氏→【意見交換会】(美容室ELLE 2F)

【座学】長崎市出島復元整備室の山口美由紀さんより江戸時代に出島が建設された経緯、出島や長崎の岬の歴史、出島復元整備事業等について詳細な説明がありました。また、今年度受賞した国の「都市景観大賞」について、評価されたポイントなどについて長崎市景観推進室の吉田剛さんより説明がありました。座学後は、復元が進む史跡・出島内を見学しました。

【昼食】出島ワーフで長崎港を眺めながら長崎と歴史的に関係の深いマカオの郷土料理を食しました。

【江戸町さるく】長崎の開港起源となった長崎の岬がある江戸町を中心に「さるく(長崎弁でぶらぶら歩くこと)」を実施。長崎県県庁跡地推進室に御協力頂き、長崎開港で建てられた岬の教会やその後に長崎奉行所西役所が置かれた場所で、今でも敷地の一角に大正13年に竣工した歴史的建造物である旧長崎警察署が遺る旧長崎県庁跡地内を歩き、長崎開港の歴史や今後のまちづくり計画について説明しました。また、様々な個性的な店舗が集まる江戸町・出島エリア周辺にてギャラリーや土産店を訪問し、お店の話やまちに関する市民目線のお話を伺いました。

【意見交換会】江戸町商店街内の美容室2Fにて実施。FG長崎2045の森恭平さん、品川正之介さんから「江戸町周辺のまちづくりについて」、「移住者から見た長崎の魅力」について説明した後、参加者と共に江戸町・出島エリアのまちづくりについてグループディスカッションを行いました。



写真①：座学(史跡・出島内の旧出島神学校)



写真②：意見交換会 江戸町商店街美容室 ELLE 2F

#### 参加者からの主な意見

- ・長崎は歴史が深い街で、そのことに住民が誇りを持っているので、上手く継承して行って欲しい。
- ・現在、この地区は分岐点にあり今後が楽しみ。
- ・若い人達が頑張っており元気のある町と思った。
- ・小さな社会実験を積み重ねる取り組みは、自分の地元にも生かせそうで参考になった。



写真③：旧長崎警察署(大正13年竣工)見学

オプション  
企画  
2

## 桐野さんとさるく「長崎開港フェスタ 450」

令和3年  
11月21日(日)  
16:00～18:00

参加者：7名

令和3年11月20日(土)～22日(月)「開港5都市景観まちづくり会議2021長崎開港450周年記念大会」が開催されました。時を同じくして長崎市は、開港5都市会議期間中、旧長崎県庁から長崎市役所にかけての国道34号線をイベント会場として、「長崎開港フェスタ450」を開催！

天候にも恵まれ、コロナ感染者が少ない時期とも重なり、20日(土) 21日(日)会場は大変な賑わいとなりました。

11月21日(日)開港5都市会議では、市内各所で分科会が開催されました。

私も分科会「居留地のランドデザインをめぐる旅」を担当しました。

第一分科会終了後、午後4時から、オプションツアーとして長崎開港フェスタ450会場をめぐる「開港450さるく」を開催しました。

今から450年前、ポルトガルとの交易によって、世界都市の産声をあげた長崎。

その拠点となったのが、今回のイベント会場となった、なが～い岬のまち。

数年前までこの地には長崎県庁が建っていました。

450年前、岬の先端には「岬の教会」が建てられ、長崎の港へ向かって、教会の鐘の音が鳴り響いていました。

江戸時代になるとこの地には、長崎奉行所西役所が置かれました。

いろいろと語りながら、長崎街道シュガーロードブースに立ち寄り、カステラ、ハトシ、ヨリヨリ、ごまパン、一口香などなど、おおよそ他都市では見ることがない、個性豊かな甘いお菓子と共に長崎歴史を辿るさるくとなりました。

少人数ながら、降り始めた雨を気にすることもなく、聞いて、食べて、参加された皆さん大満足のひとときとなりました。

オプション  
企画  
3

## 長崎居留地 BAR-GAI& ライトアップさるく

令和3年  
11月21日(日)  
19:00～21:00



会 場：東山手・南山手  
参加者：38名  
担 当：長崎山手応援隊

函館で生まれた大人気の飲み歩きイベント「BAR-GAI」を、開港5都市会議の御縁がきっかけで2019年に長崎で初開催。今回、2021長崎大会に合わせてイベントを開催することとなり、4都市の皆様にも御参加いただきました。





担 当：長崎県屋外広告美術協同組合 案内人：田中剛生（(有)アート長崎） 参加者：20名  
経 路：出島表門橋前(集合)→大波止→長崎県庁→出島メッセ→平和公園(下車・散策)→浦上天主堂→稲佐山中腹(停車・夜景)→  
女神大橋→水辺の森公園(下車・散策)→出島表門橋(解散)

オプション企画2では、「夜も素敵ばい！海と夜景観とサインを巡る450 ナイトバスツアー／～人と人、文化をつなぐ海、まちからまちへと流れる光、そしてまちを彩るサイン～」を企画しました。

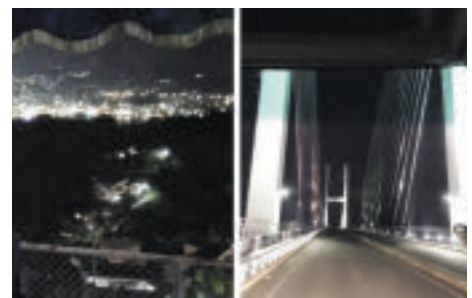
ツアー出発前は雨でしたが、参加の皆様が乗車された瞬間に雨が上がり、途中下車の際も傘を持つ事無く無事に開催出来ました。

バスガイドさんのパワーに圧倒されながらも、昼と夜、全く違う表情を魅せてくれる長崎のまちに改めてリスペクトしながらバスは進みます。「長崎市まちなか夜間景観整備」にてライトアップされた「平和公園」。ガイドさんの説明も合わせてあらためて祈りの光を感じました。地元の参加者も夜の平和公園は初めての方ばかりで感動されておりました。ライトアップされた「浦上天主堂」平和公園地区を抜け、稲佐山中腹へ。真っ暗な車内からの夜景観、まちを彩るサインを堪能し、一路女神大橋へ。あっというまですが、海の玄関口、夜の長崎港を経て、長崎水辺の森公園へ。気温も低く視界良好にて、ロマンティックなライトアップと共に、世界遺産「ジャイアント・カンチレバークレーン」、通ってきたばかりの「女神大橋」、山頂電波等のライトアップが美しい「稲佐山」、対岸の「三菱重工長崎造船所」など、低高度の公園からとは思えないほど美しい長崎港を中心とした幻想的な夜景観を堪能しました。

時間が許せば稲佐山山頂展望台にて「世界新三大夜景」の「1,000万ドルの夜景」もご案内したかったです。

### 参加者からの主な意見

- ・ライトアップされた平和公園に是非行きたかったのが良かった。
- ・照明を落としたバスに乗るのは初めてなのでワクワクした。
- ・改めて長崎の夜景が素晴らしいと思った。
- ・水辺の森公園の木に当てている照明の色はどうかと思う。
- ・稲佐山からの夜景も堪能したかった。
- ・お土産が良かった。
- ・バスガイドさんの話が上手だった。



写真①：真っ暗な車内からの夜景（左）と女神大橋（右）



写真②：長崎水辺の森公園にて記念撮影



写真③：参加者用お土産＋ドリンク付き

# FG会議

会場：AGORA DEJIMA（出島ワーフ2F）

日時：令和3年11月21日（日）16：00～18：00

## FG Presentation Next450

「継承と発展」をテーマにした2016長崎大会で生まれた「FG会議」が1周回って里帰り。FGとはFuture Generation（=次の世代）の略。各都市で活躍する21名のFGキーマンがかつての日本最先端の地・長崎出島地区に集い、各都市で展開する個性豊かなまちづくり活動を怒涛のショートプレゼンで表現しました。



### 函館市

熊木 祥哲(ハコダテフィッシャーメンズワーフ) / 國分 晋吾(一般社団法人Blue Commons Japan)

山田 かおり(縄文DOHNANプロジェクト) / 岡田 暁(函館デザイン協議会) / 品田 朋廣(函館市役所)

海の恵みを生かした漁師さんやブリ振興、歴史を生かした縄文文化や函館タータンチェック、市役所若手職員による取組みなど、函館らしさが際立つ！



### 新潟市

西野 廣貴(TabiiT) / 本間 海渡(特定非営利法人新潟海洋開発) / 上杉 知之(NPO法人新潟水辺の会)

屋外空間を楽しむDJチーム、お馴染みのニシーノ酒場、信濃川や鳥屋野潟における水辺を生かした取組みなど、公共空間の活用に積極的！



## 横浜市

小田嶋 鉄朗(ヘリテイジタイムズ横浜・神奈川) / 番場 俊宏(ヘリテイジタイムズ横浜・神奈川)  
盛田 真史(横浜市)

新たに創刊された歴史を生かしたまちづくり新聞や横浜市都市デザイン50周年事業など、官民一体となったチームワークが素晴らしい!



## 神戸市

植村 一仁(コネクト神戸) / 小川 嘉之(コネクト神戸) / 片山 喜市郎(元町商店街まちなみ委員会)  
足立 大輔(美しい街岡本協議会) / 根津 昌彦(合資会社ゼンクリエイト)

さんきたアモーレ広場やストリートテーブル、キッチンカー活用など、三ノ宮周辺は日本の公共空間活用のトップランナー!



## 長崎市

江口 忠宏(DEJIMA BASE) / 大島 徹也(茂木まちホテルツーリズム協議会) / 徳久 泰河(長崎東山手洋館活用プロジェクト)  
平山 広孝(長崎都市・景観研究所 / null) / 青柳 智子(ながさき若者会議)

出島表門橋の活用、漁師町のまちごとホテル化、東山手地区の洋館活用、スナックのリノベーション、若者のコミュニティ形成など、同時多発的に進行中!



長崎以外の4都市のなかでも最も聴衆の共感を集めたのは、来年開催都市の新潟市。スライドが表示されないトラブルにも負けず、新潟のミズベ愛を熱く表現してくれました。豪華長崎詰め合わせ賞品をプレゼント!



新潟市のプレゼン

共感大賞は、新潟市!!



## 行政会議

令和3年11月20日(土) 15:30～16:30  
会場 出島メッセ長崎106 参加者:9名

### 概要

各都市からあらかじめ提出された議題について、議論や事例紹介等を行いました。時間の関係上すべての議題について議論は出来ませんでしたが、積極的に景観形成を行ってきた5都市間で具体的な意見交換がなされ、有益な会議となりました。

## 代表者会議／全体会議2

令和3年11月22日(月) 10:00～11:00 (代表者)  
11:00～12:00 (全体2)  
会場 ホテルニュータング

### 概要

代表者会議では次回開催都市や大会宣言文案及び、開港5都市景観まちづくり会議規約の一部改正が承認され、これによりFG会議が正式に会議体となり、年間を通じて開催できるものとなりました。全体会議2では、今大会の総括、大会宣言、次回開催都市である新潟市への大会旗引き継ぎが行われ、全3日間の会議は無事に終了しました。

- 開会
- 各分会報告
 

分科会1報告	一般社団法人 ナガサキペイデザインセンター	梅元 建治
分科会2報告	十善寺地区まちづくり協議会	河原 廣行
分科会3報告	風頭公園景観振興会	片山 巧
分科会4報告	深堀地区まちづくり推進協議会	西 清
分科会5報告	一般社団法人 長崎県建築士会長崎支部	中野 善弘
分科会6報告	DEJIMA BASE	江口 忠宏
分科会7報告	ナガサキマチナカ女子部	阿部 美和子
分科会8報告	長崎市・景観研究所	平山 広孝
分科会9報告	長崎市景観推進室	久間 進一郎
分科会10報告	長崎市・景観研究所	平山 広孝
- 代表者会議報告
 

	長崎市景観推進室長	嶋本 千秋
--	-----------	-------
- 大会宣言
 

	深堀地区まちづくり推進協議会	西 清
--	----------------	-----
- 次回開催地あいさつ
 

	新潟市代表 「新潟学の会」	石本 正幸
--	---------------	-------
- 大会旗引き継ぎ
- 開催都市謝辞
 

	開港5都市景観まちづくり会議2021	
	長崎開港450周年記念大会実行委員会 委員長 桐野 耕一	
- 閉会



代表者会議の様子



旗の受渡し

## 次回開催都市(新潟市) ごあいさつ

新潟学の会  
石本 正幸

今回が他都市を巡るのは初めてなのですが、全く経験がないほうが代表を務めるには、新鮮ではないかという事で参加いたしました。

コロナ禍でこれほどの会を開催して頂いて、お見事としか言いようがなく、来年の開催都市にはプレッシャーです。

地元を小学生同士がガイドをする体験を通し、地元を誇りに思うようになるという長崎の取り組みはとても参考になりました。夜の参加では同じ景観の見え方が、昼とは全く違って見え、その見せ方に感心しました。

来年は新潟で9/23、9/24、9/25から3日間を予定しており、素晴らしい大会になるよう、これから企画して皆様をお迎えしたいと思っております。

### 謝辞

開港5都市景観まちづくり会議2021長崎開港450周年記念大会実行委員会  
委員長 桐野 耕一

「ポストコロナ時代の「港」を生かしたまちづくり」というテーマをもって10の分科会を開催させていただきました。皆様バランスよく楽しんでいただけた様子で嬉しく思います。

長崎は、長崎駅周辺など様子が変わっており、その変化を見ていただきたい思いがありましたし、何より開港450周年の記念の年でもありましたので、こういう年にタイムリーに開催できたことを、会を代表してお礼申し上げます。

来年、新潟で皆様と元気にお会いすることを楽しみにしております。

これからは一年に一度ではなく、日常的にFG世代を中心に活動情報を共有できるような開港5都市になっていくと思っております。

皆さまのおかげを持ちまして無事に長崎大会終了することができました。3日間本当にありがとうございました。





## 軍艦島の今と未来



デミー博士

担当：噂の土木応援チームデミーとマツ、長崎市・景観研究所 / null

トーク：デミー博士(土木学者・YouTuber)、平山広孝(長崎市・景観研究所 / null) 参加者：18名

当初、軍艦島クルーズ&上陸観光を実施する予定でしたが悪天候のため急遽、軍艦島トークショーに変更しました。トークショーでは、①ホテルニュータングのハヤシライス、②パソコンとスクリーンを使った講演、③デミー博士&平山氏によるトークショーとした。最後には質問タイムを設けました。

オプション企画5では、老朽化が急速に加速し崩壊がはじまった世界遺産・軍艦島の現状と軍艦島が負の遺産とならないように今後未来にどのように残していくのかを考えるための講演、トークショーを開催しました。

デミー博士は2010年ごろから軍艦島に上陸して調査を行って来ました。2014年には世界で始めて軍艦島を島ごと3Dで記録に成功し、2015年には長崎市とグッドデザイン賞を受賞しました。また、TBSクレイジージャーニー「写真家 佐藤健寿さんの今しかみれない軍艦島特集」で特別協力させていただきました。2018年にはホテルコーポレーションさんと協力して軍艦島3Dデータからフルカラー3Dプリンターを用いた3Dプリンター模型の制作し、軍艦島資料館(長崎市)に寄贈させていただきました。これらの活動からデミー博士は「軍艦島の守り人」として呼ばれています。

トークの時に説明で使用した動画をYouTubeで公開していますのでQRコードを読み取って御覧いただく、YouTubeで「デミー博士 軍艦島」で検索いただき動画をご視聴頂ければと思います。



写真①



写真②：デミー博士×平山氏トークショー

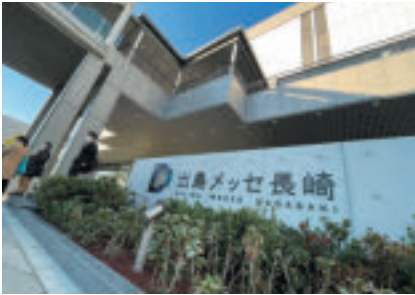
### 参加者からの主な意見

- ・ 動画を使った説明が分かりやすく上陸した気分になった。
- ・ 軍艦島の老朽化の現状がよく理解できました。
- ・ デミー博士の軍艦島を守る活動をもっとPRすべき。
- ・ デミー活動の応援しています。
- ・ 長崎市がデミー博士の活動を全面バックすべき。



写真③：軍艦島の動画

# 思い出アルバム



メイン会場は出島メッセ長崎



オリジナルグッズ販売



会場内にブースエリアを設置



協賛企業ブース



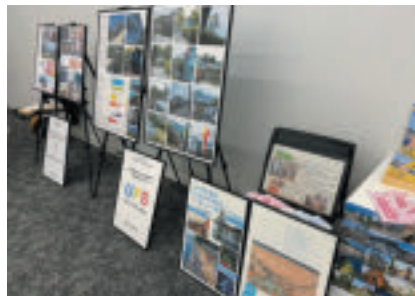
各都市の情報ブース



受付



原さとみさん独唱



市民団体の活動展示



大盛況! 神戸タータンブース



迫力満点! 変面ショー



昼食時水仙マン生ライブ!



深堀ふれあい広場



BAR-GAI キャンペーン



美味! 居留地ハヤシライス



山の頂上でミニキャンプ

# 思い出アルバム



恐竜とにらめっこ



国宝大浦天主堂の前で



交流のひとつ時



大樹の下で交流



中島川でenjoy



長崎ちゃんぽん・皿うどん



長崎の偉人が眠る場所へ



中国文化にふれあう



野母崎の海鮮昼食



2次会でFGとLG合流!



有志でのLG交流会



有志でのFG交流会



行政会議



大会宣言



長崎大会最後の記念撮影



## 開港5都市景観まちづくり会議 2021 長崎開港 450 周年記念大会 大会宣言

時代は 16 世紀、大航海時代。スペインとポルトガルは競い合うようにして東洋を目指し、天文 18 年（1549）イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルは日本・鹿児島に上陸した。キリスト教は広がりを見せ、22年後の元亀 2 年（1571）、最初のキリシタン大名となった領主・大村純忠によってポルトガル船が入港し、長崎の地は開港されたのである。

近世の長崎は、幕府直轄の唯一の国際貿易港として繁栄し、独自の町人文化が形成された。幕末、安政の開港によりその独占的な地位は低下したが、長崎外国人居留地が設置され、我が国の近代化に大きな功績を遺した。明治以降は工業都市化が進んだこともあり、第 2 次世界大戦では原子爆弾が投下され多くの命が失われた長崎の街であったが、高度経済成長の波に乗り造船業や以西底引網漁業の拠点として奇跡的な復活を果たした。

戦後 76 年、開港から 450 周年を迎えた長崎市で、開港 5 都市景観まちづくり会議 2021 長崎開港 450 周年記念大会が開催された。

いま、全国各地で人口減少や少子化・高齢化などの社会構造の変化により地域をとりまく状況はますます厳しさを増している。さらに、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスにより、社会全体の価値観が大きく変わろうとしている。

こうしたなか、2021 長崎開港 450 周年記念大会では「ポストコロナ時代の『港』を生かしたまちづくり」をテーマに開催され、5 都市の市民が集い、各都市共通の資源である「港」のさらなる活用とニューノーマルに対応したまちづくりについて熱く意見を交わした。

本大会で得られた知見やアイデア、つながりを糧にして、各都市の景観まちづくりを一層推進していくとともに、5 都市間の結束をより強固にしていくことをここに宣言する。

令和 3 年 11 月 22 日

開港 5 都市景観まちづくり会議 2021 長崎開港 450 周年記念大会

参加者一同

## 開港5都市景観まちづくり会議の沿革

回	開催年	開催都市	大会テーマ
第1回	1993年(H5) 8月	神戸	坂のまちと旧居留地
第2回	1994年(H6) 10月	長崎	市民主導のまちなみ・まちづくり
第3回	1996年(H8) 2月	新潟	港といっしょになった都市、一体となった都市って何だろう？ 新潟らしさの提案
第4回	1996年(H8) 10月	函館	北の開港都市に民の系譜を探る
第5回	1997年(H9) 10月	横浜	開港都市の伝統・文化を活かした街づくり
—	1998年(H10) 10月	神戸	【代表者会議】
第6回	1999年(H11) 10月	神戸	開港都市の未来(あした)を探る ～共生する地域文化～
第7回	2000年(H12) 10月	長崎	開港都市の遺伝子を伝える ～長崎から21世紀に発信する都市文化の創造～
第8回	2001年(H13) 8月	新潟	水都(みなと)にいがた夏!! ようこそ ～新世紀の開港都市文化を暑い熱い新潟で語り合う～
第9回	2002年(H14) 10月	函館	北の国からのメッセージ いいべや「港・まち並み」考えよう
第10回	2004年(H16) 3月	横浜	150年の歴史とにぎわいづくり
—	2004年(H16) 12月	神戸	【代表者会議】
第11回	2005年(H17) 10月	神戸	開港都市のさらなる飛躍 ～明るく、元気!!～
第12回	2006年(H18) 9月	長崎	開港によってもたらされた文化と歴史の継承
第13回	2007年(H19) 11月	新潟	田園と港が出会うまち、政令指定都市・新潟で語り合おう 実りの秋にいがたへ来なせや
第14回	2008年(H20) 10月	函館	新・函館探訪 ～呼吸(いき)づくまちを未来へ繋げ～
第15回	2009年(H21) 9月	横浜	150年の贈りもの ～新たな旅立ちへ～
第16回	2010年(H22) 10月	神戸	共生のまちづくり ～時間・空間・文化を超えて～
第17回	2011年(H23) 11月	長崎	愛・絆・希望 5港の祈り ～長崎から～
第18回	2012年(H24) 10月	新潟	新潟の「らしさ」を求めて ～過去・現在・未来へのつながり～
第19回	2013年(H25) 9月	函館	再発見! "ひと"と"まち"をつなぐもの ～開港と食とラボ～
第20回	2014年(H26) 10月	横浜	開港5都市の未来 これからもココから
第21回	2015年(H27) 11月	神戸	開港都市からの発信 ～わたしたちのまちづくり～
第22回	2016年(H28) 11月	長崎	継承と発展 ～次の世代の景観まちづくり～
第23回	2017年(H29) 9月	新潟	語り合おう港への想い ～歴史と未来がつながる開港150周年～
第24回	2018年(H30) 9月	函館	未来につなぐまちづくり ～今、立ち止まって考える。～
第25回	2019年(R元) 11月	横浜	見つけよう、広げよう! 開港都市の可能性
第26回	2020年(R2) 10月	神戸	「withコロナ時代の新しい景観まちづくり」
第27回	2021年(R3) 11月	長崎	ポストコロナ時代の「港」を生かしたまちづくり ～歴史・つながり・未来～

# 開港5都市景観まちづくり会議規約

## (名称)

第1条 本会議の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議」（以下「景観まちづくり会議」という）と称する。

## (目的)

第2条 景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市（以下「開港5都市」という）の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切にまもり、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力あるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。

## (活動)

第3条 景観まちづくり会議は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- (1) 情報の交換
- (2) 共通の課題に対する調査研究
- (3) その他、前条の目的達成に必要な活動

## (組織)

第4条 景観まちづくり会議は、開港5都市のまちづくりを実践する市民団体等で構成する。

- 2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

## (会議)

第5条 景観まちづくり会議の会議は、定期大会、代表者会議及びFuture Generation会議（以下「FG会議」という）とする。

- 2 定期大会は、原則として年1回会長が開催する。
- 3 代表者会議は、会長が必要に応じ開催することができる。
- 4 FG会議は、景観まちづくり会議の継承・発展のため、年間を通じて開催できるものとし、FG会議事務局が開催する。

## (役員)

第6条 景観まちづくり会議に会長を置く。

- 2 会長は、定期大会開催都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等の代表者をもってこれに充てる。
- 3 会長は、本会議を代表し、会務を総理する。
- 4 役員の任期は、定期大会終了から次期定期大会終了までの間とする。

## (事務局)

第7条 景観まちづくり会議の事務局を会長都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等に置く。

- 2 FG会議の事務局は、FG会議で別途定める。

## (規約の改正)

第8条 本規約の改正は、景観まちづくり会議の代表者会議の議決によらなければならない。

## 付 則

本規約は、平成11年10月11日から施行する。

本規約は、令和3年11月22日から施行する。

# 開港5都市景観まちづくり会議 2021 長崎開港 450 周年記念大会実行委員会規約

第1条 本会の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議2021長崎開港450周年記念大会実行委員会」（以下「実行委員会」という）と称する。

## （目的及び事業）

第2条 実行委員会は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市（以下「開港5都市」という）の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切に守り、愛着を持ってそだて、個性豊かで魅力のあるまちづくりを行うため相互に交流を深め、課題を協議し、次に掲げる事業を行うものとする。

- (1) 開港5都市景観まちづくり会議2021長崎開港450周年記念大会の企画、運営
- (2) その他目的達成に必要な事業

## （組織）

第3条 実行委員会は、長崎市景観まちづくり連絡協議会及び第2条の目的に賛同する関係諸機関、団体等で構成する。  
2 実行委員会以外で、第2条の目的に賛同する関係諸機関、団体等で構成するサポート団体を設置することができる。

## （役員）

第4条 実行委員会に、以下の役員を置く。

- (1) 実行委員長 1名
  - (2) 副委員長 1名
  - (3) 会計 1名
  - (4) 監事 2名
- 2 役員は、長崎市景観まちづくり連絡協議会の役員をもって充てる。
  - 3 実行委員長は、会議を総理し、実行委員会を代表する。
  - 4 副委員長は、実行委員長を補佐し、実行委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
  - 5 監事は会計を監査する。

## （会議）

第5条 実行委員会は、実行委員長が招集する。

- 2 実行委員会は、委員の2分の1以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 実行委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、実行委員長の決するところによる。
- 4 実行委員長は、必要に応じて実行委員会の関係者の出席を求め、意見を聴取することができる。
- 5 実行委員会を円滑に運営するために部会を置く。

## （事務局）

第6条 実行委員会の事務局は、長崎市景観推進室内に置く。

- 2 事務局に事務局長を置き、長崎市景観推進室長をもって充てる。

## （負担金）

第7条 実行委員会に参画する団体の負担金は、一口 10,000円とする。

## （サポート団体）

第8条 サポート団体で参画する団体は、負担金を必要としない。ただし、議案に関する議決権は有しない。

## （経費）

第9条 第2条の事業に要する経費は、負担金、協賛金、参加費及びその他の収入をもって充てる。

## （その他）

第10条 この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、実行委員長が実行委員会に諮って定める。

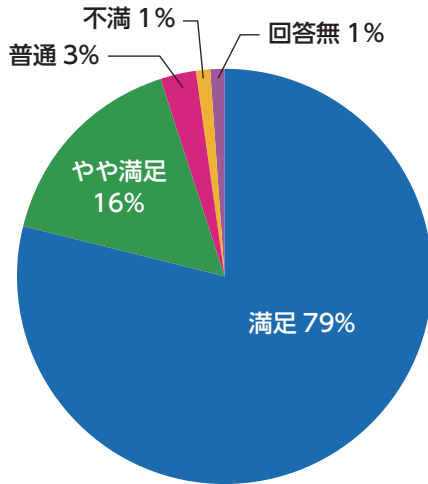
## 附 則

- 1 この規約は、令和3年 6月11日から施行する。
- 2 この規約は、事業終了後4ヶ月をもって廃止する。

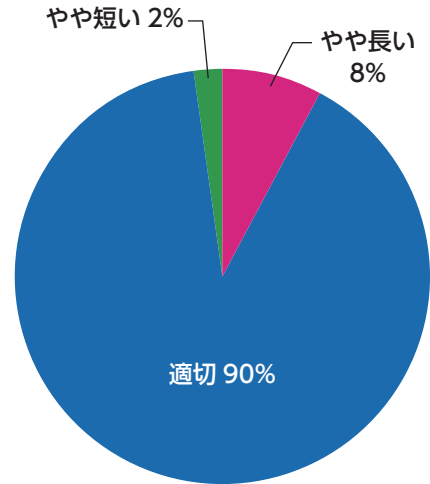
# 2021 長崎大会アンケート結果

有効回答数：①～④：117、⑤：30

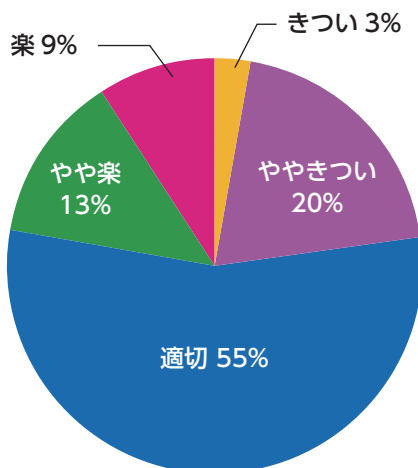
## ① 企画内容について



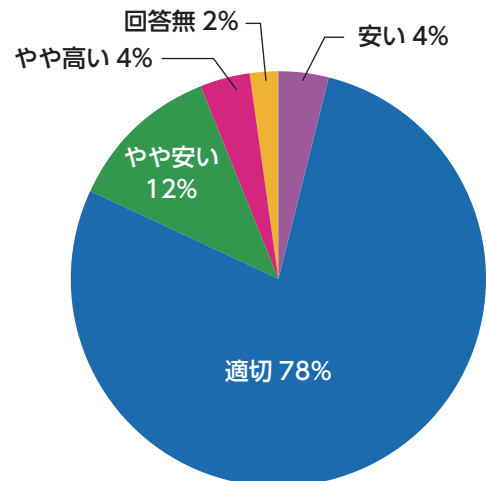
## ② 所要時間について



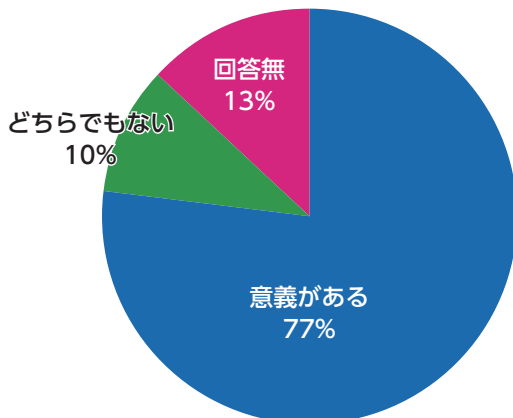
## ③ 体力消費について



## ④ 参加費用について



## ⑤ 開港5都市 景観まちづくり会議について



### その他ご意見 (抜粋)

- ・コロナ禍だったが、分散化やオンライン配信などの工夫が良かった。
- ・期間はもう少し圧縮して2日間という選択肢もあるように思う。
- ・期間は3日間くらいが丁度良い。
- ・F G会議のノリが軽すぎて会議としての内容が薄い。
- ・F G会議はもっと語り合ったり、刺激になったりする会になって欲しい。
- ・事例紹介どまりの運営から脱却して欲しい。
- ・各都市の英知を集約し、5都市で1つのプロジェクトを立ち上げてはどうか。
- ・「景観まちづくり」という冠に限界がきているのではないか。
- ・景観の関係者が多様で、この会議と行政の関わり方は今後も課題になる。



# 関係団体一覧

主催 開港5都市景観まちづくり会議2021長崎開港450周年記念大会実行委員会、十善寺地区まちづくり協議会  
深堀地区まちづくり推進協議会、東山手地区町並み保存会、三ツ山町犬継地区まちづくり推進協議会、大浦青年会、風頭公園景観振興会  
長崎都市・景観研究所、平和公園地域まちづくり協議会、南山手地区町並み保存会、一般社団法人長崎県建築士会長崎支部  
長崎居留地歴史まちづくり協議会、一般社団法人ナガサキベイデザインセンター、一般社団法人プラスアイエヌジー  
NPO法人長崎コンプラドール、FG NAGASAKI2045、斜面地・空き家活用団体つくる、長崎県屋外広告美術協同組合  
長崎東山手洋館活用プロジェクト、茂木まちホテルツーリズム協議会

共催 長崎市

役員	実行委員長	大浦青年会、長崎居留地歴史まちづくり協議会	桐野 耕一
	副実行委員長	深堀地区まちづくり推進協議会	西 清
	会計	東山手地区町並み保存会	高口 恵
	監事	三ツ山町犬継地区まちづくり推進協議会	野口 保久
	監事	平和公園地域まちづくり協議会	山口 一博

参加団体	<b>【函館市】</b> 函館景観まちづくり協議会 函館の歴史的風土を守る会 NPO法人はこだて街なかプロジェクト 函館市  <b>【新潟市】</b> 新潟学の会 にいがた花絵プロジェクト実行委員会 非営利活動法人 新潟海洋開発 TabiiT(タビート) にいがた商人塾 新潟市	<b>【横浜市】</b> ヘリテイジタイムズ横浜・神奈川 よこはまYYラボ ヨコハマ海洋市民大学実行委員会 横浜商科大学 2019横浜大会運営メンバー Yocco18 横浜コミュニティデザイン・ラボ 公益社団法人 横浜歴史資産調査会 横浜市役所都市デザイン室 横浜市立大学 横浜市役所都市デザイン室 Yocco18 NPO法人まちづくりエージェント SIDE BEACH CITY.  <b>【神戸市】</b> 北野・山本地区をまもり、そだてる会 旧居留地連絡協議会 美しい街岡本協議会 南京町景観形成協議会 新長田駅北地区東部いえなみ委員会 三宮中央通りまちづくり協議会 神戸元町商店街まちなみ委員会 コネクト神戸 ゼンクリエイト 地域問題研究所 神戸市都市局景観政策課	<b>【長崎市】</b> 十善寺地区まちづくり協議会 深堀地区まちづくり推進協議会 東山手地区町並み保存会 三ツ山町犬継地区まちづくり推進協議会 大浦青年会 風頭公園景観振興会 長崎都市・景観研究所 平和公園地域まちづくり協議会 南山手地区町並み保存会 一般社団法人 長崎県建築士会長崎支部 長崎居留地歴史まちづくり協議会 一般社団法人 ナガサキベイデザインセンター 一般社団法人 プラスアイエヌジー NPO法人長崎コンプラドール FG NAGASAKI2045 斜面地・空き家活用団体 つくる 長崎県屋外広告美術協同組合 長崎東山手洋館活用プロジェクト 茂木まちホテルツーリズム協議会 海の守人 長崎シー・クリーン 噂の土木応援チームデミーとマツ 軍艦島3Dプロジェクト DEJIMA BASE 長崎さんぽ デミー & マリー 長崎商工会議所青年部 長崎新社会人ネットワーク ナガサキマチナカ女子部 長崎山手応援隊
------	---	--	--

協賛 有限会社 アート長崎、株式会社 オリエントアイエヌジー、大浦保育園、株式会社 アルス、株式会社 イーズワークス、株式会社 光総合建設  
株式会社 メモリード、株式会社 森美工務店、株式会社 ライト建築設計事務所、京呉服桐野、桐ノ木保育園、大成建設 株式会社  
長崎新聞大浦販売センター、反田海運株式会社 ホテルニュータンダ、山電 株式会社、岡町地区自治会、おきアセットマネジメント合同会社  
株式会社 Better、十八親和銀行大浦支店、長崎運送 株式会社、長崎自動車 株式会社、HafH、平和町自治会、南長崎クリニック

サポート団体 海の守人 長崎シー・クリーン、噂の土木応援チームデミーとマツ、軍艦島3Dプロジェクト、DEJIMA BASE、長崎さんぽ デミー & マリー  
長崎商工会議所青年部、長崎新社会人ネットワーク、ナガサキマチナカ女子部、長崎山手応援隊

映像配信 株式会社 コミュニティメディア

発行年月：令和4年3月  
編集・発行：開港5都市景観まちづくり会議2021長崎開港450周年記念大会実行委員会

問合せ：095-829-1177(長崎市景観推進室内)  
住所：〒850-8685 長崎市桜町2-22



開港5都市  
景観まちづくり会議

開港 5 都市景観まちづくり会議2021  
長崎開港450周年記念大会実行委員会